

国と国とが協力・統合することの意義を考察する授業実践

－ 世界の諸地域 ヨーロッパ州「EUのメリット・デメリットの考察から国家間における持続可能な連携・協力のあり方を模索する」－

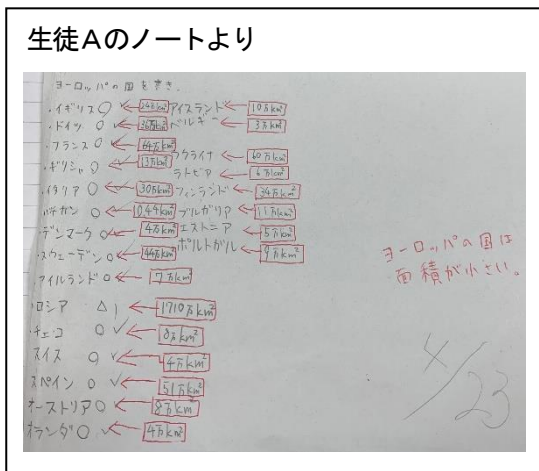
伊部 雅之

今年度の社会科は「未来に生きる資質・能力を育む社会科学習」を研究主題として授業研究を行ってきた。ここでの「未来に生きる資質・能力」とは、持続可能な社会を目指そうとする私たちが自立的に生きるために必要な公的な資質・能力を指す。世界の諸地域「ヨーロッパ州」の単元では、生徒がヨーロッパ州の国々の面積について調べ、ヨーロッパ州の国々の面積が日本よりも狭い国が多いことに気づき、ヨーロッパにおける戦争の歴史やその反省を踏まえてのEUの誕生をつかむ。またEUの加盟国数の推移からEU加盟によるメリットを考察する。しかしその一方でイギリスが離脱しようとしている点に焦点をあててEUの課題を考察する。それらの活動を通して、「国家間における持続可能な国家間の協力・統合の在り方」について意見を構築するという流れで単元を構成した。

1. 学びの実際

(1) 「ヨーロッパ州」の外観 (第1時)

世界の国々の復習を兼ねて、ヨーロッパ州に含まれる国をノートに書くところから授業がスタートした。生徒はノートにヨーロッパ州に含まれる国名を書くわけだが、国名と国名のとの間に間隔を取るよう指導した。そうしてヨーロッパ州の地形、農業、気候などの内容について調べ学習を行った。ヨーロッパ州についての外観を終えて、課題づくりに入る。先ほど間隔を取らせたところに、その国の面積を調べて記入させた。そして、その面積を日本の面積(約38万km²)と比較をさせた。すると、ヨーロッパの国は、大部分の国が日本よりも面積が狭いという事実に気づく。



その気づきから、面積や人口の規模が小さいヨーロッパ州の国々が、アメリカや中国、そして日本とどのように対抗していくかを生徒に問いかけると、「一緒になる」などの意見が出た。そこから「EU」の存在を提示し、授業を展開していった。

(2) EUの存在、加盟国の推移、加盟によるメリット (第2・3時)

まず、EUの加盟国が増えていることをつかませるために、次のような数値を生徒に与え、この資料の題名を考えさせた。

資料	{		}
1967	1993	2019 (年)	
6	12	28 (か国)	

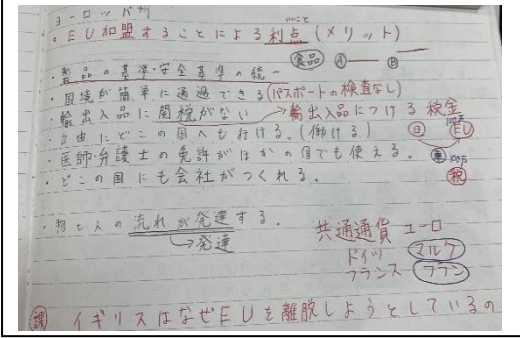
最初は、数字だけしか提示しなかったが、(年)と(か国)をヒントとして見せると解答を書ける生徒が増えてきた。「EUの加盟国の変化(推移)」全体で確認をした。そしてEUの加盟がどのように拡大していったかをつかませるために、略地図に着色する作業を行わせた。「EU」の拡大を視覚的にも理解させ、では「EUに加盟するとどのような利点(メリット)があるのか?」という課題を提示した。

この課題に対して教科書、資料集から次のような内容を見つけてきた。

- ・製品の基準の統一。
- ・国境が簡単に通過できる。
- ・輸出入に関税がかからない。
- ・自由にどこの国でも働ける。
- ・医師、弁護士免許が他の国でも使える。
- ・どこの国でも会社がつくれる。

これらの内容について、分からない箇所を挙げさせ、ノートに赤線を引かせ、その分からない箇所をクラスで調べていき、内容を確認した。

生徒Aのノートより



そこで生徒に次のように投げかけた。「これらの内容からEUに加盟する利点を15字以内で説明しなさい。」その課題に対してグループで話し合った。生徒たちから「人と物(モノ)の流れが発達する」という意見が出された。EUに加盟する利点をクラスで共有して、生徒に次の新聞記事を配布した。

生徒に配布した新聞記事



(3) イギリスのEU離脱からEUの課題についての考察 (第4時)

「イギリスはなぜEUを離脱しようとしているのか。」という課題に対して考察した。資料集より「移民の増加」という内容を見つけたので、それに焦点を絞って進めた。「なぜ移民が増加するか」という課題に対して生徒から次のような意見が出された。

- ・イギリスはGDPが高いから。
- ・他の国でも仕事ができるから。
- ・交通網が発達しているから。
- ・EUに加盟した国の中で国民総所得に差があるから。
- ・加盟国間で経済格差があるから。

そこからさらにEUが抱える課題についても資料をもとに読み取った。その学習より、EU加盟国の加盟年と国民総所得の関連についても

確認することができた。そしてもう一度生徒に課題を出した。「イギリスにとって移民が増えることはよいこと?わるいこと?」その課題について考察させた。

(4) 国家間の協力・統合についての是非 (第5時)

まず、前時に考察した意見をもとに、自分がどの立場かを可視化するために、ネームマグネットを黒板に貼らせた。そこで数人の生徒に自分の考えを発表させた。

[よいこと]

- ・他の国の人も自分の国で仕事をするよりもイギリスで仕事をした方が、給料が多くもらえるから。
- ・イギリスでモノがたくさん買える。

[わるいこと]

- ・イギリスからしたら、たくさんの人が入ってきて仕事をする人が多くなり、給料が少なくなる。
- ・会社は払う給料が増え、負担になるし、人口が増えすぎると逆に食べられなくなる人が出てくるかもしれないから。

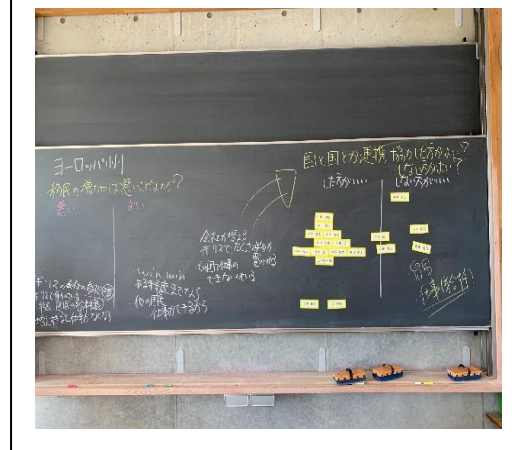
また、ネームマグネットが真ん中の境界線付近に貼った生徒がいたので、その生徒に考えを発表させた。その中には生徒Aも含まれていた。

生徒A：時と場合によっては悪いことである。

- ・移民もある一定の数までならいいが、イギリスは島国であるから、移民が多くなりすぎると土地などが限界になってしまうから、真ん中に貼った。
- ・win、winの関係を維持できる程度までなら人の移動はいいと考える。

もう一度生徒に返して、次の課題を最後に考えさせた。「国と国とが連携・協力した方がいいと思うか。」生徒は、改めてその課題について考え、再度ネームマグネットを黒板に貼った。

ネームマグネットを貼り可視化した黒板



生徒Aは「[しない方がよい]」の方に貼っていた。黒板を見ると、「移民の増加」についての是非では、よくないと考えていた生徒が多かった。しかし、連携・協力についての是非になると「した方がよい」という意見の生徒が多かったので、その生徒を中心に意見を発表させた。

〔した方がよい〕

- ・ロシアやアメリカ、中国などの大国だけが発展して、他の国は貧乏なままで戦争が起こるかもしれない。お互い協力しあって、そしてお互いを抑制することが必要だと考えたから。
- ・国と国が連携や協力すれば、貿易でお金やモノを取り入れることができる。また文化の交流も行われる。関係が深くなると何かあったときに助けてもらえるような協力関係が築けると思ったから。
- ・連携すれば、いろいろな国と交流してよりよい国をつくることができるから。
- ・観光地の多い国は他の国から来る人の数が増えるから。

〔しない方がよい〕

生徒A：メリットも大きいですが、経済格差のある今、その国やその国の人のことを考えるとデメリットの方が大きいと思ったから。

- ・移民が増えると、病院や学校など新しい施設をつくることにもなり、その国の人にとってよくないと考えたから。

最後に、連携・協力の形に関する資料を生徒に配布した。FTA（自由貿易協定）などのいろいろな連携・協力の形をクラスで共有した。その資料を見ると、日本が行っている連携の一覧があり、その資料から、「なぜアフリカ州の国の名前がないのか」という気づきが出てきたので、これからのアフリカ州への学習につなげて授業を終了した。

2. ふりかえり

「未来に生きる資質・能力を育む社会科習」を研究主題として授業実践を行った。授業者としては、EU以外の連携・協力の形を少しでも考えられるところまでいきたかったが、できなかった。単元の展開の中で、「移民が増えることはいいこと？わるいこと？」というように二者択一の課題を提示すると、どちらか一方からしか思考しない生徒が多く、いろいろな視点からの考察にならなかつたと考える。どのような課題をつくると、生徒がいろいろな視点から考察

するかを、今後考える必要があろう。ただ生徒Aをはじめとして、数人の生徒がそのようにメリット・デメリットの双方から考察していた。自分のねらいとする多面的な見方で考察していた生徒がいたことは評価できると考える。それを踏まえて、さらに発展的な連携・協力の形を考察できる展開も考えていきたい。また生徒Aは、最終的に「国と国との連携・協力」ということについては否定的な立場であった。世界の流れもこの数年間で変わりつつある。アメリカのトランプ大統領に代表されるように「自国第一」を掲げている国が存在するのも事実である。そのような事例を生徒に提示できれば生徒の考えも深めることができたのではと思う。

また生徒達には幾度となく自分の考察をさせたわけであるが、それが根拠を明確にして考察できているわけではない。というのも考察ではあるが、あくまでも自分の予想の色が強いものが大部分で、エビデンスがないということである。これから、資料に基づいて考察させていきたい。

この授業の最後に、生徒達にこの単元で学んだことや疑問、さらに教員に対して思うことを付箋に書かせた。そうすると次のような内容が生徒から出てきた。

〔生徒Aのこの単元での学び〕

- ・国の見方が、ただその国がどういふ所かだけでなく、グラフや図などで比較するようになった。
- ・何かするときにメリット・デメリットを考えるようになった。
- ・資料から課題や特徴を考えるようになった

〔この単元で学んだこと〕

- ・EUの課題がわかった。
- ・ヨーロッパの国が小さいことがわかった。
- ・EUに加盟するといろいろな利点があることが分かった。
- ・まだ自分は移民がいいかわるいか分からない。
- ・国の交流や協力の難しさを理解できた。

これらから、生徒は、物事を見る方法として、1つの方向からではなくて、いろいろな方向から見るということを学んだようである。この単元ではメリット・デメリットという2つの方向から見ることができた。これからの授業を通して、さらに違った視点から物事を見る力を付けていきたい。その際に、社会科であるから、やはり資料をもとに考察する力をつけていきたい。そのためにも、教師が教材研究を行い、生徒に提示する資料を精選していかななくてはならない。

また生徒の疑問から次の単元への学習課題を提示できればと考える。

〔出てきた疑問〕

- ・なぜ加盟しない国があるのか？
- ・なぜアメリカはGDPが高いのか。
- ・EUに加盟したのが遅い国がGNIが低いのはなぜか？

例えば、北アメリカ州の単元の課題は、「なぜアメリカは、GDPが世界1なのか？」とできればと考える。そのように生徒から出てきた意見を取り入れて授業を展開していく、そしてそのようなプロセスを積み重ねていくことで、「未来に生きる資質・能力」を育むことにつなげていければと考える。

さらに、生徒から次のような意見も出された。

〔教員に対して思うこと〕

- ・資料を見て説明するのが分かりやすい。
- ・今回はイギリスが主だったから、ロシアから分かれたウクライナなど、ヨーロッパの他の国も知りたいと思った。
- ・ヨーロッパの国の様々な問題を知りたくなった。
- ・ビデオや映像を見せてくれたからよかった。

生徒の中には、「イギリスが主であったから他の国も知りたい」という意見もあった。この単元では、1つの国にスポットを当てて授業を展開していったが、これからの授業展開ではこのような生徒の意見も大切にしていきたい。